

平成 27 年度事業計画

京都府内に存する埋蔵文化財の調査、研究、保存、活用を行い、文化財の保護を図るとともに、文化財保護の普及啓発に努め、地域の文化の発展に寄与することを目的に実施する。

平成 27 年度の実業計画は、次のとおりである。

1 発掘調査受託事業

国・京都府等が実施する公共事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を受託する。本年度は、別紙平成 27 年度発掘調査事業予定一覧のとおり、14 件の発掘調査（道路建設関係 7 件、施設建設関係 4 件、河川改修関係 1 件、ほ場整備関係 2 件）、及び 7 件の整理報告を併せ 930,160 千円の事業とする。

継続事業は、新名神関連として城陽市下水主神社東遺跡、下水主遺跡、芝山遺跡、八幡市女谷・荒坂横穴、国道新設に伴う岡田国遺跡、府道新設に伴う出雲遺跡・中古墳、施設新設に伴う寺町旧域・法成寺跡などを実施する。

新規事業としては、由良川の水防災対策事業に伴う福知山市阿良須遺跡、亀岡国営圃場整備事業に伴う亀岡市佐伯遺跡ほか、府警本部新設にともなう平安京跡の調査を実施する。

整理作業は多く 7 事業を数え、通年の現地調査を実施した舞鶴市大川遺跡のほか、平安京跡などがあり、遺跡調査報告集は第 164 冊・165 冊・166 冊・167 冊として刊行する。

2 普及啓発事業

(1) 35 周年記念事業

当センターは、昭和 56 (1981) 年に設立され、平成 28 年 3 月で 35 周年を迎えます。センター 35 周年記念事業として、「交流」をキーワードに対外交流や地域間交流が日本文化形成に与えた影響を中心に展覧会とシンポジウムを開催する。また、遺物を中心にわかりやすく解説した冊子を刊行する。

(2) 埋蔵文化財セミナー

埋蔵文化財セミナーは、発掘調査成果の発表を通じて京都府の歴史の解明と文化財の保護に寄与するために年 2 回開催する。

第 1 回は、8 月に 35 周年記念事業に関連して、縄文から古墳時代の交流をキーワードにしたプレシンポジウムを向日市内で開催する。

第 2 回は、2 月に都城、特に恭仁宮跡を中心にその調査成果を木津川市で開催する。

(3) 機関誌

当調査研究センター及び府内関係機関等の発掘調査状況の速報として、当面する埋蔵文化財の調査、研究及び保護に資するために『京都府埋蔵文化財情報』を年3回刊行する(第127～129号)。

(4) 共同研究

当調査研究センターにとって必要な調査研究を行い、その成果を『京都府埋蔵文化財情報』に公表して、京都府における埋蔵文化財の保存と活用にあ資するため、職員により共同研究を行う。

(5) 出前講座・体験授業等

京都府教育委員会、各教育局、府文化環境部、市町村及び府内小・中学校と連携して、出前講座や発掘調査体験授業、現地説明会等、積極的な文化財保護の啓発を行う。あわせて、ホームページで啓発事業の活動報告を行う。

(7) 「関西考古学の日」関連事業

全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックの各財団が各種イベントを開催する「関西考古学の日」に関連して、当調査研究センターでも京都の歴史を紹介する講座や遺物のものづくり体験教室等を開講する予定である。

3. 職員研修

(1) 専門研修

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会や同協議会近畿ブロックが開催する研修会などに参加する。また、国立行政法人奈良文化財研究所による専門研修にも参加する予定である。

(2) 一般研修

人権研修委員会が中心となっておこなう職場研修のほか、京都府教育庁行政・人権問題研修や公益財団法人世界人権問題研修センター開催の人権大学講座にも積極的に参加する。

(3) 遺跡検討会

前年度の発掘調査において大きな成果をあげた京都市平安京跡、舞鶴市大川遺跡の2遺跡について、職員とともに関係機関の協力を得て、遺構・遺物の検討をおこない、今後の報告集に反映させる。